



untitled

<http://www.kana-pie.com>

「untitled」 肩書や、形にとらわれず、自由に広がりのある活動を目指して・・・

神奈川県社会福祉法人経営青年会通信

contents

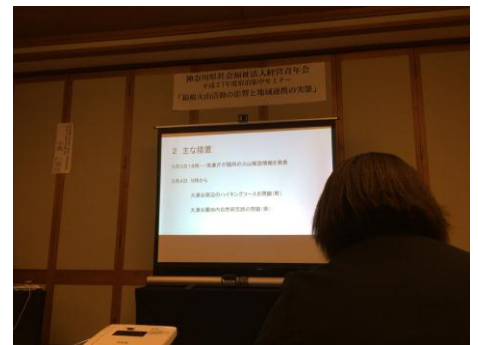
活動報告	— 宿泊集中セミナー — 1・2面
	— 保育研究委員会研修会 — 2・3面
	— 障害研究委員会視察研修会 — 3・4面
	— 関東甲信越ブロック社会福祉法人経営青年会 総会・研修会 — 4面
	— 平成27年度第2回総会・研修会 — 5面
お知らせ	— 今後の予定・新入会員紹介・会員状況 — 6面

活 動 報 告

宿泊集中セミナー

2015年10月21日と22日、箱根富士屋ホテルにて宿泊セミナーを開催しました。タイトルを「箱根火山活動の影響と地域連携」としましたが、東北の震災同様、私たちにもいつ同じような状況が降りかかってくるか分からないということを自らに再認識させるような研修だったように思います。

講師に小泉仁里氏ら（箱根町企画観光部観光課）をお迎えし、まずは神奈川県随一の温泉街箱根の広報活動などのお話を伺いました。講師は箱根町に生まれ育ったこともあり、非常に帰属意識の高いお話を伺うことができました。その冒頭に箱根町観光DVD鑑賞「ようこそ箱根町へ」を鑑賞し、都心からのアクセスの利便性や、世界に通用するクールジャパンの一つ「アニメカルチャー」（エヴァンゲリオン）とタイアップした取り組みによる箱根町の観光ビジョンを知りました。東京オリンピックに向け我々神奈川県民もあらためて箱根町の重要性和地域資源の創造的活用法を教わったように思います。



講 義 風 景

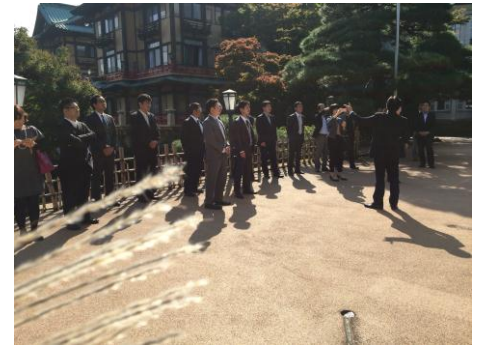
また、箱根ジオミュージアム学芸員山口珠美氏による箱根火山活動の報告を聞いた後、セミナーⅡとして富士屋ホテルコンシェルジュによる館内案内ツアーと講和「次世代を担う若きスタッフ達の挑戦・一流ホテルの取組に学ぶ」を開催。館内にある絵画や彫刻の細かな解説と、ホスピタリティに関する教育の苦悩と重要性、また創業より実に130余年という歴史を感じる写真や調度品を目の前に見聞を深めると共に、一筋縄にはいかない経営の厳しさも窺い知ることができました。

続いて、セミナーⅢ「自然災害時における福祉施設の役割と対応」講師：（社福）長寿会理事長 陽光の

園施設長 加藤馨氏、(社福)神奈川県社会福祉事業団 箱根老人ホーム所長 高添尚代氏のお話からは、メディア、マスコミの過熱報道による業務への支障や、風評被害によるご家族の不安など、火山活動への対応よりも実務に対する弊害ともなるお話が印象的でした。

今後も確かな安全性は確約されていない私たちは、こういった現場での経験を緊急時に共有し、ご利用者とご家族の安心へと繋げられるかも非常に重要な横のつながりであると感じました。

今回受講した会員の「災害時の対応」が今回の研修により確かなものとなるように切に願います。



宿泊先庭園での説明

【研修委員 馬場拓也】

保育研究委員会研修会

去る平成28年1月19日(火)、神奈川県社会福祉会館第2会議室において、平成27年度保育研究委員会研修会を開催しました。今年度は、慶應義塾大学の今井むつみ先生を講師に迎え、「思考力と言葉力」というテーマで講演をしていただきました。当日は24名の参加で行われました。

まず、ことばの学習は「発見→創造→修正」の繰り返しとのことです。たとえば、月を見て大人が「お月様だね。」と子どもに言ったとします。子どもは「お月様」という言葉が何を意味するのかを考えます。黄色くて丸いものがお月様なのか？と。そこで卵の黄身を見た時に「これはお月様なのか？」と最初は考えます。しかしそれは周りの大人が「黄身」だと言っているので違うことに気づきます。そこで修正をしていきます。この繰り返しで子どもは単語をより正確な意味で覚えていくそうです。また色の名前も子どもにとってはとても難しいそうです。赤、青、緑、黄色など様々な色がありますが、それぞれの境界線はどこにあるのか？それは新しい色(たとえば黄緑)を知った時に黄色との境界線と緑との境界線を修正していくそうです。



今井先生による講義

次に母語は思考の要という話をされました。まず言葉は相手に自分の考えを伝える時に使うものですが、それ以前に自分自身の中で思考する時に使います。ですから、言葉、とくに母語をしっかりと習得することは、その子の思考する能力を高めること、ひいては学力向上につながるそうです。移民など、乳幼児期に様々な言語に触れて生活をしているとそれぞれの言語レベルが上がるまえにまた違う言語に触れてしまうので、その子の言語レベル全体が一言語を話す子どもよりも上がらないという実際の例もあったそうです。

では、言葉力を育むためにはどうしたらいいのでしょうか。子どもは言葉の意味を自分で考え、その仕組みを自分で発見していきます。ですから、周りの大人はたくさんの、質の良い言葉がけをすることだそうです。そうすることで、子どもが本来持つ「発見する力」、「推論する力」を育むのだそうです。

読み書きという語彙力に特化すると、子供中心の保育、自由遊びの時間が長い保育スタイルの幼稚園、保育園の方が一斉指導型の園よりも語彙得点が高いことがわかっているそうです。

最後に子どもの言語獲得にとって一番大切なことは、子どもが言葉に興味を持ち、言葉を使って遊びたいと思うように周りの大人が導くことだそうです。子どもに常に接している大人は、自然に子どもの発達段階に応じた発話が出来ます。あまり身構えずに子どもが何を語りたかきに注意して、子どもとの会話を楽しむことが大切だと仰っていました。

今回は乳幼児期における言葉の獲得に焦点をあてて講演をしていただきました。子どもに携わる仕事をしている一人として、言葉を獲得していくためによりよい環境を作っていくことが大事な仕事のひとつなのだなと感じました。最後に、今回講演して下さった今井先生や、当日まで色々と準備等でご協力いただいた経営青年会の方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

【保育研究委員長 渡邊高幸】

障害研究委員会視察研修会

1月19日(火)、「神奈川医療少年院」を施設見学しました。

神奈川医療少年院は、相模原市にある知的障害や発達障害を持つ少年(男子)を対象とした定員80名の少年院。日本には医療少年院が4箇所あり、そのうち神奈川医療少年院と京都医療少年院が軽度の知的障害や発達障害を持つ少年を収容しています。

収容者の非行内容の3割程度が窃盗(万引き等)、その他は傷害、殺人、わいせつ、放火などがそれぞれ1割程度を占めるとのことでした。

収容される少年の特徴として、ほぼ全員が単独犯であり、社会的弱者であるが故に、社会に居場所を見つけれなかった子が多いとのことでした。対人関係を上手に作れない為、非行グループにも属せない孤独な背景があり、また、本人自身が非行について反省できない、悪いことを理解できないところがあると説明を受けました。



見学説明風景

法律上、少年院の基本的な入退院の期間は11ヶ月ですが、知的障害や発達障害を持つ少年は18ヶ月程度の指導期間を要すとのことでした。

職業指導については、通常の少年院では退院後の就労に繋ぐ為、資格取得の出来る職業指導を主とするところ、当院では陶芸や木工など障害者施設の日中活動的な指導内容となっているそうです。

生活指導についても、生活能力の向上を目的として、通常は必要に応じて配布される石鹸や下着、鉛筆・ノート等の物品を、おもちゃのお金を用いて購入し、小遣い帳をつけるという工夫をしていました。また、退院後の自立生活に向けて、グループホームタイプの建物で自立生活訓練も行われていました。更正・指導だけでなく障害特性を考慮した教育プログラムの取り組みが印象的でした。

最後に少年たちの退院後の生活について、ここが福祉との大きな関りの部分です。基本的には退院後は家族のもとへ帰りますが、家族が少年を受け入れることができない、両親も障害を持っている、両親からの虐待など難しいケースが多く、生活環境の調整が大きな課題です。福祉サービスへ繋げていくにも、少年の殆どは療育手帳を持っておらず、障害が軽度であるが故に小中学校は普通学級で過ごして来た者が殆どです。そのため、入院する少年の3割以上は非行を犯して、初めて福祉手続きをする。そして、退院する少年の2

割以上が家族の元に帰れず、福祉施設が受け皿となっているそうです。

非行を犯す少年たちの多くは、家族や生育歴などの環境要因によるところが多いと言います。障がい福祉に携わるものとして、社会のセーフティーネットを担う社会福祉法人の職員として、我々に出来ることを考える貴重な機会となりました。

この度はお忙しい中、見学を快く受けていただいた、神奈川医療少年院 院長の田中先生と見学説明をしてくださった職員の皆様に、この場をお借りし深く御礼申し上げます。

【障害研究委員 武藤祐生】

関東甲信越静岡ブロック青年経営者会 総会・研修会

千葉県は成田市において平成 28 年 2 月 4 日・5 日に渡り、平成 27 年度の関東甲信越静岡ブロックの総会・研修会がおおよそ 140 名の参加者が集い開催されました。

初日の研修では、「社会福祉法人制度改革について」（六親会・湯川智美氏）、「これからの福祉と広報・デザインの可能性」（ジャストオンス・鈴木雅紀氏）、「心は空を飛ぶ」（シンガーソングライター・森圭一郎氏）の講演が行われ、それぞれ中身の濃い研修内容となりました。特に制度改革については、今後我々社会福祉法人経営に携わる者が取り組まなければならない事項とそこに至った経緯を大変分かり易く解説いただきました。さらに私たち神奈川県が先進的に取り組んでいるライフサポート事業について講演の中で大変お褒めいただき、また他府県のモデル事業となり得ることを示唆されました。情報交換会ではプロ野球球団千葉ロッテの「マリーンズカンパイガール」の参加もあり、他府県の会員との親睦を図りつつも大変な盛り上がりを見せた楽しい時間となりました。



会場風景



活動報告する西山会長

2 日目は研修「成田第 3 旅客ターミナルと L C C の活用について」（成田国際空港振興協会理事長・行方正幸）の後、総会・各都県の活動報告が行われました。他県の先鋭的な取り組みから今後私たちの活動、また個々の仕事への取り組みについて大いに参考となる部分も散見され、また刺激を受けて参りました。昨年度の神奈川県における関東ブロック大会に負けず劣らずの内容で、大変充実した 2 日間でした。来年度は東京都開催となります。多数の参加をお待ちしております。

【総務広報委員 真壁洋道】

平成27年度第2回総会

平成28年3月2日（水）14時30分から神奈川県社会福祉会館にて、平成27年度第2回総会が開催されました。

最初に会長から、「会員数が100人を超え、様々な場面で活躍している会員もいる。平成28年度も引き続き若い力を結集し、地域の公益的な取組みの実践をしていこう。」とあいさつがあり、伸生会の大畑直氏を議長として次の議案が審議されました。

第1号議案 平成27年度収支補正予算（案）について

第2号議案 平成28年度事業計画（案）について

第3号議案 平成28年度収支予算（案）について

第4号議案 その他

審議の結果、すべての議案が承認されました。



総会風景

総会研修会

総会後の研修会では、スタイリアの小笹陽子氏を講師にお招きし、「印象を磨いて笑顔のギフトを」と題して、講演していただきました。小笹氏は、イメージコンサルタント、パーソナルカラーアナリストのディプロマ取得で経験を積み、CA、講師経験と合わせて思い（意識）と形（見た目）を磨く、現在の好印象プロデューサー（イメージアップコンサルタント）として幅広く活動されています。



小笹先生による講義

研修は一方的な講演ではなく、身振り手振りを使った説明や隣の席の参加者と対面して実際にやってみる形式もあり、飽きることのない、充実した内容でした。

「印象というのは、自分が決めるものではなく、対象となる物や人の心に与える感じであり、相手に対する敬意や思いやりである。そして、第一印象は短時間で決定され、一度定着すると変えにくく、その後の人間関係にも影響するととても大切なこと。自分の足りないところを客観的に分析し、それを改善する、自分を磨くことが相手に好印象を与えることになる。」とのお話でした。対人サービスが基本となる社会福祉事業を営む私たちにとって、大変有意義な研修となりました。

先生は情報交換会にも最後までご参加いただきました。会員のパーソナルカラーや服装などについて、終始、素敵な笑顔でお話しされていたのが好印象でした。

先生は情報交換会にも最後までご参加いただきました。会員のパーソナルカラーや服装などについて、終始、素敵な笑顔でお話しされていたのが好印象でした。

【総務広報委員 福原高洋】



小笹先生と一緒に記念撮影

お 知 ら せ

今後の予定

予定されている研修会や大会です。詳細については、案内書、またはホームページでご確認ください。

開催日	場所等	テーマ等
平成28年6月20日	キャメロットジャパン	平成28年度第1回総会・合同研修会

新入会員紹介

新たに入会された新会員を紹介いたします。

稲垣 誠 様 (中心会)

会員状況

会員数 100名 法人数 72法人 (平成28年3月末日現在)

編集後記

毎回、原稿作成等にご協力いただき、ありがとうございます。研修等の活動報告がほとんどですが、総務広報担当で検討して掲載内容を決定することが年に1回あります。このたび10月に発行予定の記事を募集します。制度の状況、インタビューなどだけではなく、こんな記事であれば会員拡大につながるのでは!といったような内容を募集します。お気軽に総務広報担当までお願いします。(high-ocean)

発行/神奈川県社会福祉法人経営青年会

連絡先/〒221-0844

横浜市神奈川区沢渡4-2

神奈川県社会福祉会館内

(福) 神奈川県社会福祉協議会

福祉サービス推進部ライフサポート担当

電話: 045-311-8753

Fax: 045-320-4077